

東北支援で思ったこと

3次チームの証言

3次チームの皆さんに「東北支援で思ったこと・印象に残ったことをひと言ずつ語ってもらいました。

●西田圭一 東北支援の輪がさらに広がった。振興協会・カレッジと共同歩調をとって派遣計画をたて、仮設や小学校での公演活動だけでなく、石巻市長や豊齢学園との懇談も実現した。今後の活動に展望がもてた。

●古後健一 「ひさしぶり」。嬉しそうに声をかけてくれたお年より。表情が明るくなった子どもたち。去年持参したメッセージを今も貼ってくれている仮設集会所や児童館。「ずっと忘れないよ」という声援を送り続けることが大切なのですね。

●大橋洋子 今回、震災後1年余り過ぎた現地の皆さんと昔遊びで交流しました。



大人は童心に、子供は無邪気に笑顔で遊ぶ姿に私自身元気を貰えて、もう暫く遊びたかったなあ〜。(十年若ければ現地の復興支援スタッフで残りたい気持ち)

●山田保子 今回仲間に加えさせていただき、2度目の仙台訪問です。仮設の皆さんが花を咲かせ、野菜を作られているのを見て、少しは落ち着かれたのかなと思いました。自然の脅威を感じるとともに、花や緑に自然のやさしさを感じます。

●海野龍英 なとりが丘児童センターで、司会を終えた時、一年生の男の子が近寄って来て、合掌した姿で「ありがとう」と言ってくれた。その小さな手を包んで言葉を返そうとしたが、声が震えて返せなかった。

●内田たみ子 仮設住宅の雪架を見て、厳しい冬の暮らしを想った。3回目の参加だが、一時でも被災者や子供たちに安らぎと生きる力を、と唄い語り遊び動きかけた。個人ではささやかな活動だが、チームでは大きくできることを実感した。

●林弥生 休耕の畑がたくさんありましたが、一日も早く再生されることを願っています。昔あそびでの子供たちのかわいらしい笑顔。これからの日本を担う子供たち。頼もしく思いました。

●波多野武郎 2度目の参加だ。仮設集会所で何人かは「覚えているよ」と手を取り、一緒に唄い踊ってくれた。明るくて元気そうなのに安堵した。銭太鼓の体験やマジックでは、子どもたちの目が輝いていた。ハイタッチで迎える手にも力強さを感じた。

●大和川明美 閉上中学校の前に立った時、「生徒の声がない廃墟のような校舎・雑草だらけのグラウンド」に一瞬凍りつきました。生徒の慰霊碑の前に新しい花が添

えてありました。その日は月命日の11日でした。

●芦田義和 第3次支援隊は公募したため、うまく公演できるか一抹の不安があった。しかし、素晴らしいメンバーに恵まれて、多彩な演技をたくさんの子供たちや仮設の住民に披露でき、喜んでもらえて大成功だった。

●浦崎佳世子 (竹の台小) 石巻には地震・津波の傷跡がそのままの地域があり、そこでの生活は想像もできないほど大変だということを感じた。その中で人々が寄り添い、助け合い「今を生きている」ことを知り、私達はその現実を心にかけて、できる事を少しでも続けていかねば、と思った。

●水嶋和信 2回目は広報として参加。「また来てくれて嬉しい。おぼえているよ」「銭太鼓や紙トンボ、風船チャンバラ、マジックが面白かった。教えてくれてありがとう」。仮設住宅・小学校・児童センターで感想が聞け、疲れが吹っ飛びました。

●三浦捷治 最初に気付いたのは仮設の皆さんの表情が明るかったこと。保育所・学校・児童館も同様でした。1年半の時間がそうさせたのだろうか？ 住民・子供たちに私たちの芸が受け入れられたのなら本当にうれしい。

●三浦良子 復興に向け頑張っておられる方々にお逢いすることができ、子ども達も明るく迎えてくれ、マジックも喜んでくれたこと、本当によかった。もう少しゆとりが欲しかったが。

●安田夫市 仮設住宅では私たちの拙い芸でも喜んでくれた。保育所・小学校では子供たちが、昔遊びやマジックなどを楽しんでくれ、「また来てね」と言われて心がじんときまりました。機会があったらまた行きたいです。

●筒井ちなみ 被災地を訪ねたいという、強い願いが叶った。その上、自分のやっている銭太鼓を披露。真剣な顔で、銭太鼓の体験をしてくれた子供たち、民謡で交流し合った仮設の方々。短い時間だったが、楽しかった。

●阿部和子 清水仮設住宅は棟と棟の間の路地がとて狭く、家の中が丸見え。そんな中、グリーンカーテンの贈り物はとても喜ばれた。公演も短い時間でしたが楽しんでいただき、明日に繋がればよいな、と思いました。

●増金スミ子 「あつ玉すだれの人。また来てくれたの」「覚えてくれていたの？お元気でしたか。私もお逢いしたかったですよ」。仮設住宅を回った呼び込みの一コマですが、皆さんと握手やらハグをしながら、10か月ぶりの再会を喜びあいました。

【写真=石巻市の日和山に勢揃いした第3次チーム】